

ザンビアの母体死亡率・死産率を低減するための人材を育成し周産期医療の質的向上を目指す事業

1. ザンビアでは母児の死亡率が高く、現地の周産期医療の質的向上を図ることは喫緊の課題である。特に妊婦健診において超音波検査が行われていないことは大きな問題となっている。
2. 愛媛大学とザンビア大学共同で、ザンビアの周産期医療改善に向けた人材育成・環境整備を行う。
3. 愛媛大学からは医師・助産師を派遣して現地の医師や助産師に超音波機器の使用方法を指導し、現地からは愛媛大学に医師・助産師を招請してシミュレーターなどを使用して指導する。日本の企業が独自に開発した安価なオンライン対応超音波プローブを用いて遠隔地のクリニックに派遣されている若手医師でも超音波検査を行い、高次施設で指導ができるように設定する。現地の女性医師に超音波検査指導を行う。
4. 今年度内にオンラインによる超音波検査システムをUTH・リビングストーン総合病院・カンヤマ病院に構築する。妊婦健診の質的量的向上によって母児死亡率を低減できる。

